

## 第2回県立男女共同参画センターのあり方検討委員会 会議概要

### 1 開催日時・場所

平成22年10月12日(月)午後1時30分～3時30分  
県立男女共同参画センター

### 2 出席者(五十音順、敬称略)

石川慎治、伊藤公雄、今宿弘子、小川泰江、関川玲子、谷正美、廣田喜紀、  
間川明子、松元光彦、柳川久美子

### 3 議事等

(会長) 前回会議の整理について、事務局からお願いしたい。

(事務局) 市町における男女共同参画推進状況、県内の市立男女共同参画センター設置状況、滋賀県男女共同参画計画答申での男女共同参画センターの位置づけ、滋賀県男女共同参画関連施策の進捗状況について説明。

(会長) 前回の質問について、説明をいただいたが、ご意見、ご質問があればどうぞ。

高島市の「ゆめぱれっと高島」は、直営と指定管理の両方が被っているが、変化したのか、どちらか。

(事務局) 22年10月1日から指定管理になった。

(会長) 大津以外は指定管理に移行している。直営か指定管理、どっちがいいのかという議論が分かれるところだが、これは県内の市町村の動き。

情報収集発信のところで、今までの図書資料室の図書購入費も全部ここに入っているという理解か。

(事務局) はい。

(会長) 「男女共同参画センター」の事業と課題について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局) 男女共同参画センター事業概要と課題について説明。

(会長) この件について意見、質問等あればどうぞ。

地域密着課題セミナーの防災、観光は、今年度どのようにしているのか。

(事務局) センターと市民活動団体との協働で実施しているものが多いが、協働する相手方のネットワークを活用し、その活動団体が男女共同参画の視点を持って、今後の活動の中に参画の視点を入れて活動できるように協働でおこなっている。

(会長) 是非やっていただきたい。防災とか観光は、男女共同参画の流れの中ですごく重要なポイントだろうと思う。日本のこれからの動きを考えた時には重要なポイント。うまく組み入れてやっていただければと思う。客員研究員制度についての説明を願う。

(事務局) 客員研究員制度については、これから検討に入る段階。

(会長) 大きな問題は人件費の問題だと思うが、どのように考えているのか。

(事務局) 予算なしで進めたい。

(会長) 基本的にはタイトルとか、役職名を付けることで協力してもらうことなのかと思う。いいアイデアだと思うが、お金の裏付けはないままやるということか。

(事務局) はい。

(会長) 配偶者暴力相談支援センターは、大津と彦根と参画センター。大津の方はいわゆる県の旧婦人相談所だと思うが、彦根は男女共同参画センターでやっているのか。

(事務局) 彦根は県彦根子ども家庭相談センターで行っている。

(委員) 図書資料室でいろんなジャンルがあると説明を受けたが、図書資料室の利用状況を、年代別で教えていただきたい。

(事務局) 60歳代最も多く約3割弱。その次が30歳代と40歳代で共に2割弱。

(委員) 30歳代と40歳代が2割弱ということだが、学生層、高校生とか大学生の利用状況を教えていただきたい。

(事務局) 1%にも満たないぐらい。

(会長) 世代別とか性別の利用をどう考えるかは大きな問題だと思う。高校生は受験勉強で使う方はおられないのか。

(事務局) 図書資料室に持ち込みで勉強することは断っている。先ほどの率は、貸し出し冊数で割合を出したもの。

(会長) 県内の4センターの協議は、年に1回くらいか。

(事務局) 1回ではなく随時に、今まで4回開催している。会議で県に求められるのは人材育成。市センターによっても様々であるが、新任職員への個別支援をしてほしいという要望や、あるいは協働で事業を開催することも要望として上がってきている。来年度以降協働での事業開催をめざしている。

(委員) 市町の男女共同参画を担当する者として、センターの市町職員を対象としたエンパワーメント講座に参加すると、新たな気づきや自分の市の事業に活かせる内容があるので、こういう事業はどんどん開催していただけたらありがたいと思っている。

(委員) 県内大学の図書館資料室との連携と書いてあるが、大学ではなくて、逆に滋賀県内の市町の例えば公立図書館で、本の検索をした時に、ここの図書資料室の本の検索ができるのか。

(事務局) 9月からセンターのホームページで検索ができるようになった。

(委員) 蔵書もかなりある。大学でジェンダー論の研究をしている教員も学生もいる。これからの連携の協議になるのだろうが、例えば、図書に関して、大学のパソコンで検索できて、図書資料室を通じて貴重な図書が気軽に、ここに来なくても、いろんな情報のやりとりができていけば、教育という面でも非常にありがたい。

(委員) 説明のあった人材育成の今後の方向は、まったくこのとおりだと思う。今、社会で、学校教育も含めて、今まで経験したことのないたくさんの問題が出てきている。それは女性だけの問題ではなく、男性と女性があらゆるところで、お互いに一緒に考えないとうまくいかない。そう考えると、今後の方向のところに書いてあることは、是非とも、実現していかなければいけないと思う。例えば、学校で授業参観等を開催した時、企業は休みを取れる制度を作っているが、そこに父親の姿が見えにくい。土曜日でないと見えないことがある。学校教育だけで頑張っても、なかなかクリアできない。目の前にある企業とかは、学校ではクリアすることができない。今、国とか県も含めて、経済状況が悪い時だからこそ、企業とか家庭教育の中に男女共同参画の一番めざしているところが、一人ひとりに浸透する方法がないかなと思う。特に、課題にも出ていたが、この経済状況にも関わらず、男性の帰宅時間がずいぶん遅く、男性の仕事時間に比重がかかっている。その分、女性が働けないの

かという、働きたくても働けない。これは、何かしなければいけないのではないかなと思っている。まずは企業と家庭教育で、ここの施設を使ってとか、具体的に動ける方法がないのかと思っている。

(事務局) ワーク・ライフ・バランスの推進、仕事と家庭との調和、両立ということが、今後、社会で大変重要な問題だと思っている。女性が働く上でも、男性の長時間労働ゆえに、家事育児が女性に大きな負担となって、継続就労がなかなか困難という状況が出ている。ここを解決しないと、男女共同参画、男女が共に能力を發揮して、共に責任を負うという形が難しいのかなと。少子高齢化社会がくるので、地域でも、地域を担う人材が、男女共に皆で担っていくという形をつくらなければならない。行政・労働・経済・地域の16団体で構成している「仕事と生活の調和推進会議しが」で、11月20日にシンポジウムを開催する。グローバル化の中、また、リーマンショック以降、経済情勢が厳しいので、数値目標を立ててやることは難しいが、一歩でも進めようと、企業の方の理解も増えてきているので、男女共同参画センターでも、そういうことを進めていく講座や取り組みを進めていく方向が必要だと思う。

(会長) 次に、方向性、複合化についての事務局の説明をお願いします。

(事務局) 方向性、複合化について説明。

(委員) 調理室、茶亭。調理室が20%弱、茶亭にあっては2%を切っている。これはもっとアピールすることによって利用価値があるのではないかな。例えば、茶亭であれば、資格を持っていても家で教えられない方々を対象に、「ここで教室を持たれませんか」と呼びかけもできる。初釜とか炉開きとかいろんな行事があり、文化祭などでももっと利用してもらうための働きかけができるのではないかな。せっかくの施設。もっとアピールすることによって活用できると思った。調理室も、業者の方が野菜を刻んで売するための実習をしているのなら、例えば、お菓子づくりをして売りたいが、家の台所は使えないので、ここの調理室を作って売るということは可能なのかなと。それからクッキング教室としても使えるだろうし、やっぱりあれだけの施設、もったいないかなと思うのが1点。女性センター、男女参画センターと名前は変わっても、やはり人材育成とか各種研修講座、情報発信という、時代に依じての努力は目に見えているが、基本的には変わってない。女性のチャレンジ支援講座は、すごく効果があり、その後、新しい道が開けた方もあると聞いている。そういう目に見える取り組みが今後は必要ではないかな。今日見学して、もう1つ立派なのが、保育室。あそこにシャワーがあれば言うことないが、それは今の時代で無理だが、トイレも砂場もあり、外で遊べる囲いもあり、ベッドもあって、いろんな設備があった。資料にもあるが、30代の女性の就業

がぐっと落ちているという。せっかくある保育室を使わない手はない。京都の「マザーズジョブカフェ」で、保育に関する相談とか、就職活動で保育とか、ここはハローワークが入っている。ここの新しい取り組みの目玉になるのではないか。京都でオープンしたのは8月頃で、9月の時点で早速もう10名ほど就職が内定したと。今はもっと増えているだろう。仕事をしたいが、子どもを抱えてハローワークも行けない、就職活動もできない方のすごくいい応援になる。滋賀がめざす社会の姿の中の最後に推進体制の強化のポイントで、男女共同参画センター「G-NETしが」を中心に、いろんな所が協力し、横の関係をもっていこうという図があり、NPO法人がある。ピアザ淡海に淡海ネットワークセンターが入っているが、いろいろ事情はあるのだろうが、ここにもってくるのも1つかなと思う。

(会長) すごく建設的な意見をたくさんいただいた。マザーズジョブカフェの話は事務局の方で何か。

(事務局) 滋賀県は全国の中でもM字カーブの谷が深い。女性の活躍をどう支援するのが一番大きな課題になっている。部局連携で、横つなぎはしているが、今の提案が可能ならば、その検討を積極的に進めていく必要があると思った。

(委員) 労働の分野で少し誤解をされると困るが、今のマザーズジョブカフェについては、ハローワークが主体的にやるという方向なので、むしろ逆。複合化だから、男女共同参画センターの中にそれができ、ハローワークが入ったのではなく、ハローワークがあるからマザーズジョブカフェができるということなので、誤解のないようにしておきたい。その意味では、複合化としての有効的な価値というのは、今後検討の余地があると思う。その前段でいろいろおっしゃった中身、事業の必要性はおそらく全員の方が認識していて、男女共同参画を推進する計画と審議会から知事に答申された内容について、我々がそれをどう検討しようという場ではないので、むしろそれを尊重して、事業存続のためにこのセンターをどう活用するのかしないのかという検討を今後していかなければならないと思う。事業とセンター機能、あるいは拠点機能、場所も含めて、関連した検討材料を今後示していただけるように是非お願いしたい。市町における男女共同参画推進状況の一覧表で、注釈で平成22年7月発行の「市町における男女共同参画推進状況」より作成ということは、市町に対しヒアリングをした結果まとめたものか。

(事務局) 市町からの報告をまとめたものである。

(会長) マザーズジョブカフェ、僕もちょっと関わっていて、うまくいっているのは、京都府、京都市労働局の連携をワンストップでやっているから。保育行政は市町村で、府や労働局は対応できない。そこへ行けば保育所の紹介も含

めて、職業相談も含めて、すべてそこでやれる。ある面、今までの縦割り行政を一まとめにするという動きですごく成功したことだと思う。この複合化という議論の中でも、その問題はすごく大切で、今までの縦割りのものをどうやって横串につなげて、住民の方に便利な形で活用してもらえるかということを考えていくことは、センター自体の今後のことを考えても重要なポイントではないかなと思う。

(委員) 方向性、複合化について、前回の会議も聞いて、私なりにまとめた論点が、男女共同参画の施策の必要性は、これは疑いなくある。ただ、それを県立の施設として持つ必要があるかどうかの精査、それにプラス建物。ソフトだけじゃだめなのか、建物として必要なのか、持つべきなのかどうかという部分。それがさらにこの近江八幡である有効性の部分の論点が必要なのかなと思う。県域施設としての必要性について、市町との連携とか出ていたが、そのあたりでいろいろとあるのではないかと。あとはハードとして必要かというのは、先ほどから出ている稼働率とか施設の有効活用。どう上げていくのか。特別室は高いので平日は値段を下げようとか、少し柔軟な対応をし、もう少しアピールをうまくすれば稼働率は上がるのではないかと。あとは近江八幡にあることに関して、議論の余地もあると思うが、市町との連携も含めて、ある程度、整理をしながら話していければと思う。

(委員) こんなに情報がいっぱい集まった場所が近くにあり、東近江市民としてはここにあってうれしいと思った。図書コーナーは、男女共同参画センターという名前でイメージしていたものよりも、はるかに幅広い分野の図書が揃えてあり、男女共同参画の視点からとらえることができる。例えば、子育て、地域づくり、障がい、災害、戦争と平和と、いろんなものがたくさんある。そういう分野の講座や活用の方法を聞きたい。チラシを見ると、ここで開催しないイベントなどの発信もしている。男女共同参画の視点が絡んでいると、我々の地域で行うこともセンターで発信してもらえることに、すごく期待を持った。幅広い視点で男女共同参画を捉えていると思うと、すごく可能性があってわくわくする仕事だと思った。幼児室の感想は、幼児室がひどいなと保育者として思った。子育ても男女共同参画の中に含まれるとすれば、子育てに利用される親にもっと意識を持ってもらえるおもちゃを置くとか、このおもちゃ何って興味を持つことで子育てに対する関心をもっと深めていけるおもちゃや、キャラクターものがたくさん置いてあるが、商業主義的でないものに親自身が関心を持つものを、せめてここに置いてあったらと思う。いろんな機能の部屋がたくさんあったが、どこも殺風景だと思う。相談室も病院みたいで、居心地がいい飾りなどを、ここを利用される団体で手づくりをされることはないのか。無料で展示し、管理してもらい、値札を付けて売られるようにして、廊下の壁などを開放すれば、アットホームな雰囲気になって、居心地が良くなる。いろんな情報が貼ってあるが、手づくり感溢れる情

報発信に目が行く。そういうのがたくさんあり、すごく読みやすいと思う一方、失礼な言い方だが、もう少しセンスのいい店があったらと思う。人権について、気づかないような人権のことが書いてあり、今、僕が見てもハッとさせられることがいっぱいある。大学や高校の人権の授業をここでやればと思った。婦人会館とはどのような関係なのか。

(事務局) 各地域で開催されるイベント情報等もできる限り収集し、発信している。相談室が殺風景だということだが、当センターの扱う相談の性質上、あえて日常生活を連想させないため、物を置かないようにしている。

(事務局) 婦人会館の敷地は県有地で、婦人会館に県有地を無償貸与している。上屋の建物自体、財団法人婦人会館の建物となっている。茶室の方から見える部屋が研修室で一番大きく、畳敷きで24畳の部屋が2つ、ぶち抜きで使うと48畳ぐらい。50～60人の方が正座して詰めれば入れるぐらいの大きさになっている。そこにはステージもある。センターには和室の部屋はないので、研修、あるいは講座などで和室を使う必要がある、例えば着付けであったり、落語の講座などは和室の部屋を使うことがあり、使用施設の使い分けでは、いろいろ各種連携をしている。G-NETの登録の団体の1つに婦人会館が入っており、いろいろ情報の交換等をしている。

(会長) 婦人会館は教育委員会管轄で、センターは男女共同参画課管轄ということ。

(委員) 近江八幡市にこのセンターがあり、駅から近く、これだけ多くの駐車場が無料で使えるというこの地の利を生かすということが、すごく大きなことになるだろうと感じている。図書資料室が、以前は学生たちが朝から並んで、占拠して勉強している状態で、なかなか一般の者が使いにくい雰囲気だったのを覚えているが、子どもたちのスペースがあったり、ずいぶん様変わりしているのにびっくりした。それを情報としてPRされていないのは残念だ。調理室の稼働率も大変低いので、新しい家庭のあり方とか、若いお父さんたちを対象とした事業もされているが、調理室を使った講座を開くとか、暮らしの面にポイントを入れて、料理とか暮らしの仕方、掃除など、ちょっと視点を変えて男性にも取り組める講座をあの場を利用すれば少し広がるのではないかと思う。

(委員) 近江八幡に住んでいるが、ここにこういう施設があるというのをまったく知らなかった。図書資料室もすごく立派だし、研修室が2つあり、そこは結構稼働率も高く、値段の設定が結構安く、それで利用されているのかなと思いつつ、豪華にできていると謳われているちょっと時代遅れの円卓の部屋も、半分ぐらいの値段にすればもっと稼働率が上がるのではないかと。考えたらずく実行された方が収入にもなると思う。箱物を先に作っていると、収

入を上げないといけない感覚がずっとあり、それは間違っているのではないか。もし企業であれば、そうかなといったら次の日からでも値段設定も変える。いろんな事業もホームページを通じてもっともっと発信するべきだと思う。利益を上げるのは恥ずかしいことじゃない。もっとすてきな事業が展開できるので、前向きに時間をかけずに実行していただきたい。

- (会 長) 住んでいながら知らなかったというように、やはり認知してもらえてない部分がかなりあり、例えば大学生の見学会とか高校生の見学会とか、ここで催し物をやってもらうなど、認知については、もう少し努力をする必要がある。何年かぶりて来たの感想だが、相談室は殺風景でいいと思うが、ざわざわ感がない。学生が、高校生がという話もあるが、ざわざわ感がなく、今日は休館日だからかもしれないが、活気がもうひとつ感じられない。お金をかければいいということではないが、お金をかけずに活気が出る雰囲気づくりも重要ではないか。
- 今日の意見に関しては、事務局の方でまとめて整理することになっているのでよろしく願います。